K's NEWS
KANSAI HOKURIKU BLOCK in AREA ×3

印刷して学生みなさんでお読みください！

全国大学生協連
関西北陸ブロック
執筆者：健康・安全内局
協力：立命館生協
発行日：2023年7月27日
第246号

立命館生協　大阪茨木キャンパス
共済すごろく

[健康と安全]

取り組み概要

日時：4/9・4/13・4/15　3回開催
場所： 大阪茨木キャンパス
参加者数や組合員の反応：3日間で61名参加。「共済や下宿生活に関する知識を得られた」「新入生同士でもスムーズに話しやすかった」などの声があった。

背景や概要：新入生のうち、下宿生に向けて共済を知ってもらうための取り組み。ゲームである「すごろく」を通して、難しく捉えられがちな共済を身近に感じてもらいたいという思いが込められている。

共済を身近に、下宿生活を楽しく安全に

POINT.1　企画が生まれた経緯

企画前の大阪茨木キャンパス(以下OIC)では、共済加入率が54％で、もしもの時、半分の学生しか助けられない現状がありました。また、共済に対して難しそうだと思われる現状もあり、自身の加入の有無すらわからない組合員も多くみられました。

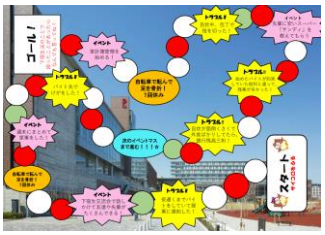
そんな中、中国・四国ブロックの松山大学で、「共済すごろく」を行なっていることを知り、OICが抱える現状を改善できるかもしれないと、実施を検討し始めました。他大学の取り組みを知り、自大学に持ち帰ることから生まれた企画でした。

POINT.2　下宿生企画と絡めた理由

下宿生は保護者から離れているため、トラブルが起きた際の対処法を知っておく必要があります。下宿特有の問題が共済と結びつけやすいという観点から、共済と下宿生企画を組み合わせていました。

何かあったときに給付を申請するのも学生自身なので、学生、特に加入率をあげるため新入生へのアプローチを大切にしていました。下宿生に起きがちなトラブルをパンフレットにして配布するなど、保護者ではなく学生に伝えることで、共済を自分ごとと捉えてもらうことができました。

POINT.3　企画に込められた思い



すごろくには、共済に関することや大学生活に関することが、特に下宿生活の視点で取り入れられていました。例えば「トラブルマス」では、下宿生に起こりがちなトラブルが取り上げられ、それに関わる給付事例を紹介していました。他にも「自己紹介マス」や「質問マス」などで、新入生の交流を促せていました。

すごろく形式で共済を身近に感じてもらい、共済以外の話題も提供することで交流を活発化させることができていました。

つながる元気、ときめきキャンパス。
univ. CO-OP
3 すべての人に健康と福祉を
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ご質問や[K's NEWS]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！
ブロック学生事務局 [森本 響子]
Morimoto.Kyoko@univ.coop